

2008年11月に発生した三重県～伊勢湾での深部低周波地震活動と愛知県内の産総研観測点での地殻歪変化

Deep low frequency earthquakes in Mie Pref. and Ise Bay on Nov. 2008 and crustal strain changes at AIST stations in Aichi Pref.

北川 有一 [1]; 板場 智史 [1]; 小泉 尚嗣 [1]; 松本 則夫 [2]

Yuichi Kitagawa[1]; Satoshi Itaba[1]; Naoji Koizumi[1]; Norio Matsumoto[2]

[1] 産総研; [2] 産総研地質

[1] GSJ, AIST; [2] GSJ, AIST

産業技術総合研究所では、愛知県に観測点を設置し、歪・地下水位などの観測を行っている。愛知県豊橋市の豊橋東観測点では、愛知県内での深部低周波地震活動に伴い、地殻歪変化が繰り返し観測されている。加えて、2006年1月の三重県から愛知県まで移動した深部低周波地震活動の際には、伊勢湾付近での活動に伴い、豊橋東観測点での地殻歪変化が観測された。2008年夏から愛知県豊田市の豊田下山観測点で観測を開始した。

2008年11月には三重県から伊勢湾までの領域で深部低周波地震活動が発生し、豊橋東観測点と豊田下山観測点で地殻歪変化が観測された。観測された地殻歪変化は、伊勢湾付近のプレート境界での短期的スロースリップイベント(SSE)によって説明が可能である。この短期的SSEは愛知県下には広がっていないと推測される。本講演では、2008年11月の活動に伴う豊橋東観測点と豊田下山観測点での地殻歪変化を紹介し、短期的SSEの断層モデルを推定する。